

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O175100288	
法人名	有限会社 なごみ	
事業所名	ライフインなごみ	
所在地	紋別市落石町3丁目42番地の5	
自己評価作成日	平成24年2月16日	評価結果市町村受理日 平成24年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設長は、紋別市ボランティアセンター長や西紋地域活動支援センターつばさの会の代表理事を勤め、管理者と職員は、認知症支援の会(青と白のハーモニー)のメンバーとして活動し、地域の一員として、認知症を理解して頂けるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigocho-
hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175100288&SCD=320">http://system.kaigocho- hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175100288&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

紋別市内の北部高台に位置し周辺は住宅やアパートがありその中でも4階建ての建物はひときわ目立っています。以前は学生主体のマンションであり改装をして平成18年に高齢者福祉に関して全国的に著名な地元の専門家の指導を得て開設され、以来今でも指導を仰ぎ、職員は利用者の人としての尊厳を守ることは無論の事、常に利用者が何を望んでいるかを念頭に置いて介護計画を策定し支援に努めています。また、一人ひとりとの関わりを多く持つ事を基本とし明るく、楽しい時間を過ごせる為に希望や意向の把握に努め近隣への散歩や買い物、ドライブ等の外出支援をしています。冬期間は玄関わきの風除室内で休んだり、外での外気浴を行ったりと健康維持に努めながら気分転換を計っています。処遇改善に努める経営者や施設長、管理者と職員とのコミュニケーションは良くとれ職員も定着しており、利用者支援へつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングの中でのケース検討の内容は、基本理念に基づいて話し合われており、実践に繋がるように取り組んでおります。	「入居者を生活の主体者にとらえ人として生き続ける」との基本理念と「温もりのある生活」の介護理念をもとに会議の中で機会あるごとに話し合い職員一人ひとりが実践に繋がるよう取り組んでいます。本年から個人目標を設定し意識や実践の向上に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや敬老会、物産展等に出かけたり、町内の方にイチゴ狩りをさせていただいたり、交流をしています	町内会には以前から加入をし地域の一人としてお祭りや敬老会等に参加をしたり催し物に出かけています。冬期間の除雪をして頂いたりイチゴ狩りへ招待を受けたりと交流をしており、本年は事業所の行事に招待を計画しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者と職員は、認知症支援の会のメンバーとして地域の人々に認知症を理解していただけるよう活動に参加しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の意見や情報を参考にさせていただいたり、他事業所の方の意見をサービスに反映させていただいたりしています	概ね2ヶ月毎に、利用者、利用者家族、民生委員、近隣住民、他事業所職員、市職員の出席を得て開催し運営に関する意見交換をしサービス向上に活かしています。出席していない家族には毎回議事録を送付して情報の共有に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用状況の報告を毎月行っている他にも、不明な点は早急に問い合わせ、ご指導頂いております	市介護保険給付係と綿密な情報交換をし待機者の正確な情報把握に協力したり、施設長は様々な会議の委員を委嘱されたりと、市の福祉向上に寄与しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤者が一人になる夜間の施錠は行なっていません。職員は身体拘束の禁止を理解しており、言葉による拘束も無いよう取り組んでおります。	新人研修の中で身体拘束の弊害についての指導を受けています。本年は外部講師による高齢者虐待防止の研修の中で話が有り全員が弊害について認識をし身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	自分達の行為が虐待にあたる事は無いかを、職員同士が相談し合いながらケアにあたっています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会に参加し、必要性を感じられた時には、関係者と相談し活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族と本人に同席していただき、説明しております。疑問点は何時でも問い合わせして頂けるよう説明しています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の代表の方と利用者様に出席していただき自由に意見を述べていただいております。	家族の来訪時や通院の報告時など機会ある度に意見や希望、要望を伺い運営に反映するように努めています。また、「なごみ通信」は毎月発行し利用者の様子を伝え安心に寄与しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回のミーティングや個人面談等にて、何時でも意見が陳べられるようにしています。	ユニット会議を毎月4回と、年に2～3回の全体会議の中で、施設長や管理者は職員の意見を聞き運営に反映させています。また、本年は全職員の待遇向上に取り組み意欲の向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望・希望を出来るだけ受けいれており、雇用体系の改善を図り、労働実績による賞与の支給をするなど職員待遇の改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会にはなるべく多くの職員が出席できるようにしており職員のレベルにあった配置転換もおこなっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉で働く人の交流会や勉強会に参加しやすいよう配慮しており、外部講師を招いた際には内部講習にとどまらず他グループホームの職員にも声をかけ広く研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される方が、極力、納得された上での入居になるよう、また、入居前に馴染みの関係作りができるよう、自宅や病院などを訪問し、話し合えるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される方の思いを受け止めることと同様にご家族の思いや希望などをゆっくり聞けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状やご家族の取り組みなどをお聴きし、その方に適したサービスを助言させていただき入所が良いのか相談させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見守り、調理の下ごしらえや洗濯、掃除等、生活行為に関する事を一緒に行ないながら、ご本人が持てる力を引き出すことが出来る様に努め、一緒に生活しているという雰囲気を大切にしています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の近況をお伝えしたり意見を伺い良い家族関係が継続出来るよう努めています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の理美容院を利用していただいたり、お寺参りや知人宅の訪問等、継続しています。	以前からの馴染みの理美容院を利用したり、商店での買い物への支援をしています。また、知人宅への訪問をして旧知を深め関係が途切れないように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って、会話を取り持ったり、ゲームを楽しんだりして良い関係が築けるよう努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設へ、お見舞いに行ったり、家族がいつでも相談出来るように努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や家族の意向を把握し、生きがいや満足感を持って頂けるよう毎月のミーティングで話し合い支援に努めています。	利用者一人ひとりの思いや意向は話の中から把握し日常生活に反映できるよう支援に努めています。生活記録に言葉や行動を記入して会議で話し合い、支援に活かしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにより把握したり、入居後も会話の中から生き方、生活歴、趣味、嗜好などについて教えていただきながら把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の流れに沿って、お一人おひとりの過ごし方を捉えながら、カンファレンスにて話し合われています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでのカンファレンスをし、ご本人の希望を優先し、普段の言葉や気持ちを感じ取り介護計画を作成しています。	利用者一人ひとりの状態に合わせて常に見直しをして、介護計画に取り入れ支援に取り組んでいます。個人の生活記録のつづりの一番目にケアプランをつづり全職員が情報共有し適切な支援になるよう努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子、変化などをカンファレンスで話し合い情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、通院や外出などの支援は柔軟に対応しています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の広報誌もんべつなどを活用し、参加などに努めています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は、入居前からかかっていた医療機関を基本とし、必要性によっては、ご本人やご家族、主治医と相談をさせていただき、受診先を変えるなど適切な医療を受ける事ができ様に支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の資格を持った職員と相談しながら健康管理を行っております。別ユニットの看護師とも連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の退院ができるよう、病院側と相談調整をさせていただいております。こまめに面会に行き、看護師やご家族との情報交換を行なっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との、話し合いは、重度化が予測される頃より行なっているが、現在は対象者はなく、職員の退職などにより、チーム体制は不十分です。	契約時に看取りは行わないことを説明し、理解を得ています。重度化が見られた場合は利用者、家族、主治医等で話し合い、事業所では対応できなくなった段階で適切な医療に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けているが、実践力には至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は行っている。避難場所の協力体制はできている	年2回、日中・夜間を想定した訓練を通じ、通報、避難、行方不明の捜索等の消防訓練を実施しています。また、近隣のグループホームとの協力体制を整備しています。	地域住民の参加が得られるよう働きかけ、あらゆる災害を想定した訓練の実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の記録物への配慮はもとより、なごみのこころに基づきながら、誇りやプライバシーへの配慮を心掛けています。	職員は事業所の接遇基準を事業所の心として、利用者の尊厳を傷つけないよう、言葉遣いや対応に注意を払っています。常に敬語を使うことを基本としています。個人情報の取り扱いについては同意を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みの関係を築きながら、本人が希望を表しやすいように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての一日の流れはあるが、その日の体調や気分に合わせて支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服の色合い等を助言したり、お化粧品やマニキュアを楽しんでいます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調にあった物(お粥・軟惣菜等)を提供し、簡単な下ごしらえや食器の後片付けを一緒に行っています。また、一緒に買い物へ行き好きな食材を選んでいただいたりしています	食事アンケートを実施し、食べ易いよう盛りつけや食器、温度等で工夫をしています。毎週土曜日、利用者と一緒に買い物に行き、食べたい物を選んでの食事を楽しんでいます。また、外食や寿司屋の社会貢献による寿司パーティーもあり、楽しみに繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はチェック表をつけながら、また、体重の増減も見ながら支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕には、声かけや一部介助を行なっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使いながらパターンを把握し、タイミングをつかみながら声かけをしています。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの自立した排泄を支援しています。また、夜間ポータブルトイレを使用する利用者もおり、安心に配慮した対応に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分チェック表を活用し便秘にならないように注意しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日を決めさせていただいてるが、その日の体調や希望により随時変更し、足浴や清拭も行なっております。	週2回の入浴機会を設け、本人の体調や状況に応じた清潔保持に努めています。3月にはユニット合同の温泉入浴を予定しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や状態に沿いながら、休息場所を自由に変更していただいたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の通院記録に副作用等記入されており、共通認識で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	催し物の見学や、地域の行事などへ希望を確認しながら参加したり、また、毎日の食器拭きや配膳。包丁研ぎや趣味の人形作りなど一緒に行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人の方に協力していただきお寺や馴染みのお店へも自由に外出しております	日常的な散歩や買い物、外気浴の他にドライブやイベント、花見、空港見学など、外出支援を積極的に行い、気分転換に繋げています。また、親戚や友人の家に遊びに行く利用者もあり、希望に添った支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とも相談し、自分で管理できる方は、所持して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由であり、職員がダイヤルを回す等支援しています。また、手紙の代筆、代読をしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なごみの支援を活用すると共に、観葉植物や季節の飾り物を置き、心地良く過ごせるように配慮しています。	ホール内は整理整頓がされており、明るく開放感があり、ゆったりとした雰囲気、利用者が思い思いに寛いでいます。季節を感じさせる飾り付けや観葉植物を置き、温度・湿度にも注意を払い、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でくつろがれる方が多いため、ソファの数を増やしたり工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物(写真・仏壇・本・人形・家具など)を持ち込んでいただき、居心地の良い空間になるようにしています。	本人が使い慣れたダンスやベッド、仏壇、写真、人形などを居室に持ち込み、不安なく生活できるよう工夫しています。居室で野菜の苗作りをしている利用者もあり、職員の見守りの中で取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内板を付けたり、入口に飾りをつけて、不安無く移動できるようにしています。		